### stl

時系列データをトレンド（trend）、季節変動（seasonality）、残差（error）に分解します。stlクエリの結果は、パーティションフィールド（by句で指定したフィールド）ごとに最大1,000件まで出力され、パーティションフィールドを指定しない場合は全体で1,000件に制限されます。

stlの出力件数制限を増やしたい場合は、-Dlogpresso.stl.limit=Nというブートオプションを追加し、希望する値を設定してください。

#### 構文

stl [period=INT{y|mon|w|d|h|m|s}] NUMERIC\_FIELD [by FIELD]

**period=INT{y|mon|w|d|h|m|s}**

時系列の周期を指定します。s（秒）、m（分）、h（時）、d（日）、w（週）、mon（月）、y（年）単位で指定できます。指定した周期に従い、時系列データが周期性を持つと仮定して分析します。周期を指定しない場合は、スペクトル分析により自動的に季節変動周期を算出します。

**NUMERIC\_FIELD**

計算対象となる時系列データを指定します。フィールド値は整数、実数、日付などの数値型である必要があります。

**by FIELD**

by句を指定すると、フィールド値ごとにグループ化されます。例えば、by dst\_portを指定した場合、80や443などdst\_portフィールドの値ごとにグループ化され、時間単位で統計が算出されます。

#### 説明

STLは「seasonal-trend decomposition procedure based on loess」の略称であり、periodが省略された場合はスペクトル分析により自動的に季節変動周期を算出します。

stlコマンドは時系列データを分析し、\_trend（トレンド）、\_seasonal（季節変動）、\_error（残差）フィールドを出力します。時系列データに周期性がない場合（例：period=0m）、\_seasonalフィールドは出力されません。